

# ギニア湾の悪魔

キリスト教系新宗教をめぐる情動と憑依の民族誌

村津 蘭

神と悪魔の憑依は、  
いかにして現実のものになるのか？

苦難を癒し、興隆するアフリカの新宗教。  
その核心は、モノや情動、環境の中に現れる霊的存在にある。  
カラー写真や映像、エッセイを交え、  
霊と呼応する人々の生に迫る、マルチモーダル人類学。

## ◎本書の内容◎

——鳥になる——

### 序章◆霊の現れと情動

- 1 アフリカにおけるキリスト教の背景
- 2 霊的存在を意味づける
- 3 霊が生成するところへ

——雨の日の会話——

### 1章◆ベナンの宗教と霊的領域

- 1 調査地ベナン
- 2 ベナンの歴史と宗教
- 3 霊的な諸力
- 4 呪術と妖術

——丘に登る——

### 2章◆バナメー教会の神と悪魔の現れ

- 1 悪魔の現れ
- 2 神の現れ
- 3 「証言」という現れ

——退屈で重要な——

### 3章◆改宗の諸相

- 1 バナメー教会の信者たち
- 2 改宗の動機
- 3 「間」に生じる説得

——スパイと民族誌——

### 4章◆憑依による変容

- 1 デリヴァランスの概要
- 2 デリヴァランスの特性
- 3 憑依霊の正体と憑座

——声がかむ——

### 5章◆憑依のエンスキルメント

- 1 憑依と身体
- 2 絡まり合いとしての霊の現れ
- 3 憑依される者のエンスキルメント
- 4 取り巻く者と霊のエンスキルメント

——送られる病い——

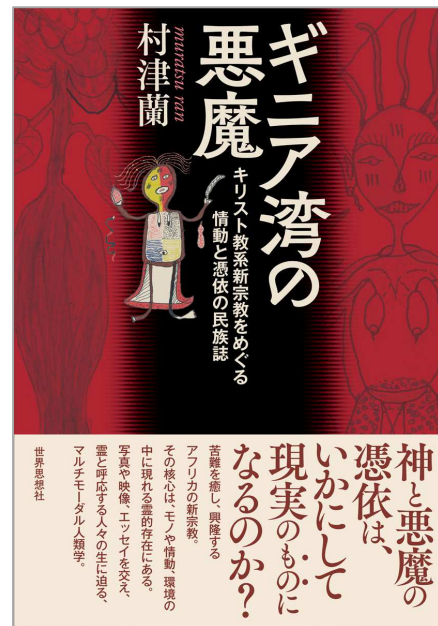
### 6章◆「妖術の病い」の治癒過程

- 1 病いの〈もの〉化
- 2 バナメー教会の治療の特徴

——トカゲの叫び——

### 終章◆呼応の中の霊、病い、民族誌

■トーハン、日販、楽天ブックスネットワーク、子どもの文化普及協会 経由にてお送りいたします。  
トーハン、日販、楽天ブックスネットワークの場合、返品はフリーでお受けいたします。（了解者：朝加）



村津 蘭 (むらつらん)

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター特任研究員。専門は文化人類学、映像人類学／マルチモーダル人類学。共著に、『現代世界の呪術』（春風社、2020年）。その他の作品に、映画「トホス」（2018年東京ドキュメンタリー映画祭奨励賞受賞）、小説「太陽を喰う・夜を喰う」（『あふりこ』新曜社、2019年）など。



世界思想社用  
コード

『ギニア湾の悪魔 キリスト教系新宗教をめぐる情動と憑依の民族誌』村津 蘭 著		書店印
定価 5,280円（10%税込）2023年1月刊行 四六判・上製／448頁 ISBN978-4-7907-1779-9		
お名前	ご注文冊数	冊
世界思想社 〒606-0031 京都市左京区岩倉南桑原町56 電話：075-721-6500 FAX：075-721-8707		